

女声合唱はやってきたけど、 大学でも楽しめる？



—そんな不安に答えます—



文学部人間科学専攻2年

1

藤井琴子

—女声合唱経験者で、大学から混声合唱を始めた藤井さんにインタビューしていきたいと思います。本日はよろしくお願ひします！

藤井：よろしくお願ひします。

—ではまず自己紹介してもらってもいいですか。

藤井：はい。文学部2年の藤井琴子です。パートはアルトです。

—ありがとうございます。女声合唱経験者ということなんですけど、いつから合唱をやっていたんですか？

藤井：中学1年生から6年間、女声合唱をやっていました。

—すごいですね。中学生の頃に合唱やろうと思ったきっかけはありますか？

藤井：うーん、あまり器用な子供ではなくて、歌ぐらいしか得意なことがなかったっていうのと、高校が合唱強豪校として有名だったから、興味があって入りました。

—強豪だったんですね。コンクールに出ているような？

藤井：そうだね。Nコンはずっと全国大会まで出場してて、私が出場した4回のうち2回は全国銀賞に入れて、2回は全国金賞を取りました。

—…初めて知ってすごくびっくりしてます(笑)。そうなんだ。

失って初めて気づく大切さみたいな感じ

—じゃあ女声合唱経験者ってことで、どうして楽友会を選んだのか知りたいな。慶應には他にも女声合唱団があるけれど、そこで女声合唱を続けようとは思わなかったの？

藤井：うーんと、大学に入ったからやっぱり異性とのコミュニティーを広げないとまずいなと思って、ちょっと勇気を出して混声合唱団の楽友会に入りました。特に女子校だったから、異性との交流が今まで全くなかったっていうのもあって。あとはずっと女声合唱っていう狭い世界にいたから、混声合唱っていうのはどう

いうものなのかなっていう興味もありました。

—なるほど。ちなみに、大学でも合唱を続けようということは初めから決めていた感じですか？もう合唱は辞める、という選択肢はなかった？

藤井:なかった。高校 3 年生の時に大学受験のために一年間合唱から離れてたんだけど、やっぱり私には合唱しない期間が辛くて、私には合唱がないとダメなんだなと思って。あとはコロナでみんなが集まって歌えなくなってからさらにみんなで歌うことの楽しさを再認識して、失って初めて気づく大切さみたいな感じで、やっぱり合唱やりたいなと思いました。だからとりあえず合唱団を何かしら見てみようと思って、他のも一応まあ考えてたけど、あんまり行かずに結局楽友会で。

—そうですか。まあコロナで新歓もあまり盛んじゃなかったしね。

藤井:まさにそれ。

—ではそういう状況で、どうやって楽友会という団体を知ったんですか？

藤井:えっと、大学のサイトでまず合唱団を探してみて、でなんか SNS で楽友会っていうものがあるっていうのを知って。あと前々から慶應に行った高校の部活の先輩とかがその楽友会に入ってるっていうのは薄々知ってたから、ここか！ってなって、見学に行ってみようと思って知った感じ。

—なるほど。SNS を使いこなしているのはさすがですね。先輩がいるっていうのもいいですね。



文学部 2 年 藤井琴子

男声が入ると女声合唱では出せない深みとか迫力とかが出るなって

—楽友会に入る上で不安に思っていたこととかありますか？

藤井:混声合唱をやったことがなかったから女声合唱の歌い方と全然違ったらどうしようっていうのは不安だったけど、むしろ女声合唱の経験は女声の安定に繋がって、強みになるなって思いました。あと不安だったのは、男声と仲良くやっていけるか。異性に慣れていなかったから、男女の隔絶とかがあったら嫌だなって思ったんだけど、楽友会は男女仲良くって休憩時間も男女混じっておしゃべりすることが多い和やかな雰囲気ので安心しました。

—確かに男女の仲は良いですね。また女声合唱経験者の存在は私も心強いと思っています(笑)。では次に、楽友会に入って良かったことを教えてください。

藤井:楽友会は意外と女子校出身者とか女声合唱経験者が多くて居心地が良いことですかね。あと混声合唱団だから混声合唱しかやらないと思ってたけど、コーラスサロン(有志による少人数合唱を発表する場)とかそういう節々で女声合唱やる機会があって嬉しかったです。

—そうですね。あと今年はコロナで合宿ができていないけれど、例年なら合宿でも男声合唱や女声合唱やりますよね。そういえばさっき楽友会には女声合唱経験者が意外と多たって言ってたけど、今どれぐらいい

たっけ？

藤井：同期に女声が多いっていうのはあるけど、全体では半分くらいか半分以上…？先輩にも女声合唱経験者は各学年の女声の半分くらいはいるように思う。

—女声・混声両方とも経験してきた藤井さんに聞きたいんだけど、女声合唱と混声合唱の違いって何でしょう？

藤井：私は中高時代アルトで女声合唱の中で一番下のパートだったんだけど、自分よりも更に下のパートがいることにまず感動して。やっぱり男声が入ると女声合唱では出せない深みとか迫力とかが出るなって思います。新たな表現の扉というか、物理的に不可能だったことが可能になった感じがすごいあるなど。そこはまた女声合唱にない混声合唱の良さなのかなって思います。

—なるほど。

楽友は想像を超えて上手だったからなんか感動した

—楽友会ってそんなにコンクール等に出る団体ではないのですが、藤井さんのように強豪校で女声合唱をたくさんやってきた人でも満足できると思いますか？やっぱり物足りなさとかを感じるのかな？

藤井：満足できると思う。中高時代はめちゃくちゃコンクールに出てたけど賞の結果ばかりにとらわれていて、なんか合唱そのものを楽しめてなかったっていうか、「間違えちゃダメだ」みたいな感じの雰囲気支配されていて。今思うと合唱に対しての思いは楽しさと言うよりもある種の緊張感の方が上回っていたように思う。でも、楽友に入ってたひたすら一曲一曲に向き合って、楽友には楽しんで歌うみたいな雰囲気があると思うから、そういう経験をして「あ、やっぱり合唱って楽しいもんだったんだな」って思えて。なんか別の角度から合唱とまた向き合えたことで純粹に合唱の楽しさに気づくことができたと思う。

—なるほど。確かに楽友会は定期演奏会に向けて一個の作品をずっと作り上げるっていうところの良さはあるから、合唱を楽しめるっていうのはすごく分かる。

藤井：あとは楽友の技術力の高さにも驚いて。中高でかなり合唱強豪校に入っていたからある程度の上手さの合唱団でないと満足できないかなと正直思ってたんだけど、見学に行った時に楽友は想像を超えて上手だったからなんか感動した記憶があります。

—最後に、女声合唱経験者の新生に向けて何か一言ありますか？

藤井：女声に限らず合唱経験者の人って、大学に入ってもう合唱はいいかな、とか何か新しいことを始めようかな、っていう人も結構多くて、合唱を続けるかどうか迷うと思うんだけど、やっぱり一回でいいから楽友会の練習を聞きに来てみて欲しい。聞いてたらきっと、やっぱり合唱っていいなあ、もう一回続けたいなーって思うと思うし、まあ混声合唱とか大学生合唱って新たな魅力もあると思うし。続けていてすごく楽しい



から、是非合唱続けるっていう選択肢を視野に入れてほしいなと思います。

—インタビューは以上です。ありがとうございました。

藤井:ありがとうございました。